

平成 27 年度 地域在宅医療・包括ケア連携会議

1 目的

保健所管内における多職種協働による在宅医療の支援体制の構築及び充実強化を図ることを目的に会議を開催する。

2 目標

- 1) 在宅医療連携における多職種の役割、具体的な連携方法についてイメージでき、今後の方向性を共有できる。
- 2) 早期からの退院支援の必要性、ケアマネ、在宅医療関係者との連携の必要性について理解する。
- 3) 今年度、都道府県医療介護連携調整実証事業で策定した「退院調整ルール」の内容について理解する。

3 主催・共催

主催：中和保健所

共催：橿原地区医師会、桜井地区医師会、宇陀地区医師会
磯城桜井歯科医師会、橿原高市地区歯科医師会、宇陀地区歯科医師会
奈良県薬剤師会、奈良県訪問看護ステーション協議会
済生会中和病院、宇陀市立病院、国保中央病院
(協力) 地域在宅医療・包括ケア連携ワーキングメンバー

4 開催日時・場所

日時：平成 28 年 2 月 21 日（日） 13 時～17 時
場所：桜井市立図書館 研修室 1（桜井市河西 31 番地）

5 内容

テーマ「病院と地域で患者さんの心を繋ぐ連携について
～顔が“見える”から、顔が“分かる”多職種連携を目指して～」

1) あいさつ

奈良県中和保健所	所長	山田	全啓
宇陀地区医師会	会長	釜本	哲幸
奈良県医療政策部	理事	中川	幸士

2) シンポジウム

- ①「奈良県における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」
奈良県健康福祉部 次長 林 法夫
- ②「宇陀市立病院 ～これまでの取り組み、現状、これからの取り組み～」
宇陀市立病院 院長 仲川 喜之
- ③「病と共に生きる」
坂根医院 院長 坂根 俊輔
- ④「在宅歯科医療の目指すもの ～多職種の力を借りて 初めてできること～」
正田歯科医院 院長 正田 農夫
- ⑤「地域包括ケアシステムにおける訪問看護の役割」
橿原訪問看護ステーションやわらぎの郷 所長 石原 祐佳
- ⑥「ケアマネジャーと多職種連携 ～これまでの取り組みと変化～」
桜井市地域包括支援センターきずな 管理者 堀 えり子
- ⑦「人々が望む療養生活を安心して送れる地域づくりを目指して
～都道府県医療介護連携調整実証事業に至る保健所の3年間の取り組みから～」
奈良県中和保健所 健康増進課 課長 和家佐 日登美
座長：奈良県中和保健所 所長 山田全啓

3) ワールドカフェ

テーマ「在宅医療連携におけるこれまでの取り組みで何ができたのか、これから何をすべきか」

アドバイザー：介護老人保健施設シルバーケアまほろば 施設長 籠島 忠
奈良県医療政策部 理事 中川 幸士

6 対象者

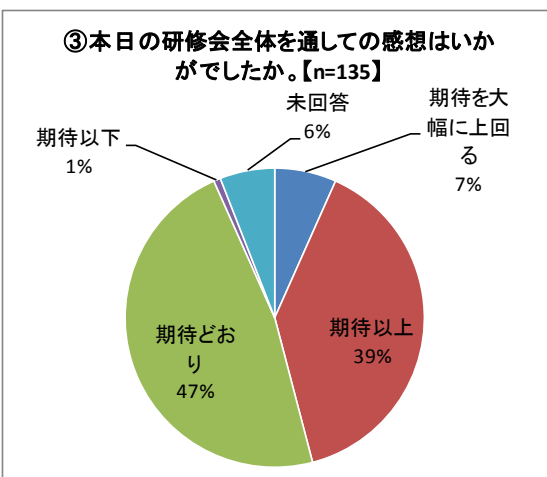
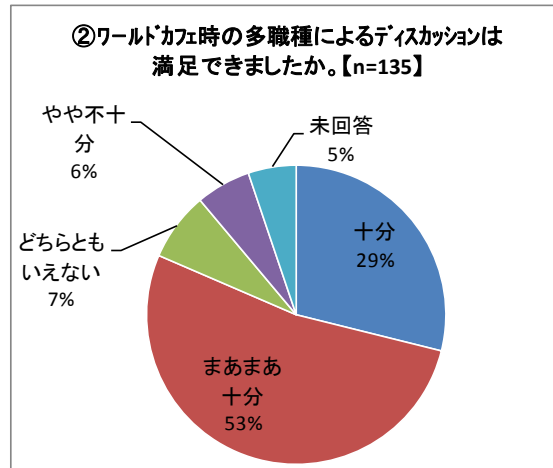
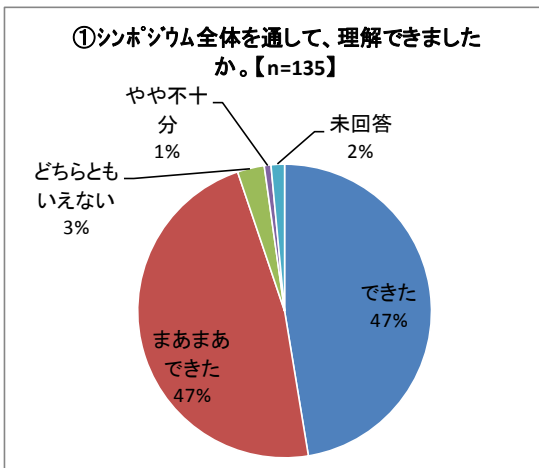
機関名	機関数	出席予定者	
診療所	213	医師・看護師	
病院	17	医師・看護師 地域医療連携担当者	
歯科診療所	141	歯科医師・歯科衛生士	
在宅患者訪問薬剤管理指導薬局	93	薬剤師	
訪問看護ステーション	19	看護師	
地域包括支援センター	13	実務者	
居宅介護サービス事業所	126	ケアマネージャー	
高齢者福祉施設	介護老人保健施設	13	実務者
	介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	21	実務者
	小規模多機能型居宅介護 支援事業所	10	実務者
	認知症高齢者 グループホーム	25	実務者
市町村	保健担当課	10	実務者
	高齢福祉担当課	10	実務者
合計	711		

7 参加者数：208名[スタッフ含む]

職種	参加人数
診療所医師	13
病院医師	3
歯科医師	9
薬剤師	16
看護師(診療所、病院、訪問等)	34
保健師	23
歯科衛生士	20
介護支援専門員	43
理学療法士	5
介護関係	10
MSW・相談員	7
社会福祉士	7
精神保健福祉士	1
管理栄養士	1
行政	9
その他	7
計	208

8 参加者アンケート まとめ

参加者：192名 回収数：135 (回収率：70.3%)



- ④本日の研修会で印象に残ったキーワード【回答の多かったもの】
- ・多職種連携
 - ・顔がわかる関係
 - ・退院カンファレンスの重要性
 - ・訪問歯科診療
 - ・薬剤師との連携
 - ・栄養管理
 - ・ケアマネージャー
 - ・薬剤師との連携
 - ・情報共有ツールMC S

⑤本日の研修会のご意見、ご感想

■開業医

- ・2回/年にしては？
- ・3年前と比べて普通にみんなと話しあえるようになっていたのは素晴らしい。
- ・リハビリ、栄養管理のレベル維持を含めたシステム構築も必要かと思いました。
- ・医師の出席が少ない
- ・昨年に続き参加者も多く、素晴らしい会となったと思います。しかし、参加されない人にはいつまでも伝わらない(かもしれない)ので参加していない人を引っぱり出す工夫がいるかと思っています。
- ・充実した討論ができた。グループ発表者も多職種を人選すべし。
- ・情報共有のツールが大問題

■ 歯科医師

- ・この地域で働き始めてまだ間もないので、思うように意見が言えなかったです。これから求められている事にこたえていきたいし、連携はやはり患者さんのために何ができるかと考えて動くことが大事だと感じました。
- ・口腔ケアの精進

■ 薬剤師

- ・もって多職種の方々に薬剤師が在宅でできることをアピールして、必要としてもらわないといけないと思いました。
- ・意見交換できる時間が短いと感じました。すべての方の意見が聞きたかったです。
- ・行政・国の指針・医療介護に対する予算をふやして欲しい。
- ・在宅医療に薬剤師がいると安心するとの声を聞いて少しは「顔がみえてきた」のだと感じた。
- ・初めて参加させていただきました。薬剤師もできることがあると認識させていただきました。他の人の意見がきけて、とても有意義な時間でした。

■ 看護師（訪問看護）

- ・「病院がやりますわ」「病院が訪問も訪問リハもやっていますよ」「家でみるのは大変ですわ。家族もしんどいですわ。」…なんてセリフが病院医師から聞かれてしまったことが非常に残念です。でもそれも人口減少の地区にとっては必要な地域包括システムの在り方なのかな、と思いました。
- ・いろいろな意見が聞けよかったです。
- ・シンポジウム、ワールドカフェと盛りだくさんで楽しい会でした。他地区との方ともお話できて勉強になりました。ありがとうございました。
- ・シンポジウムで各専門家の方々のとりくみを聞くことができ参考になった。グループワークでは多職種連携ができました。
- ・昨年と比べて多職種連携が取れてきているのではないかと思います。更に向上できるように取り組みをしていきたい。
- ・他職種の役割で今まで知らなかった事が知れて今後は活用していきたい。

■ 看護師（病院）

- ・3回目の研修に参加致しました。回を重ねる都度に質があがっています。顔が見え、話し合いの出来る雰囲気でした。
- ・いままで分からなかった他職種との連携やいろんな方の考え方が分かって良かった。
- ・より良いチーム作りに向かい色んな人と出逢え、意見を聞いて勉強になりました。ありがとうございました。
- ・現在の部署では関わる機会の少ない事なのですが、普段から情報・自病院の取り組みを知っておくといったレベルでのものでした。今回参加による学びと他施設、多職種の関わりから、現状を知る事ができた事、その施設、職種での問題など多く知る事ができました。
- ・在宅・病院との関係性がシームレスとなってきた。退院前CFの内容検討を考えていければいけない。
- ・歯科医・薬剤師の在宅での関わりがわかって今後の課題が見えてきました。ありがとうございました。
- ・時代の流れなのかなーアナログもいいけどね。
- ・次回の研修会にも参加して、垣根をとっていきたい。
- ・他職種に具体的な内容を聞いて良かった。
- ・多職種の方と話し合う事ができて良かった。
- ・退院時、患者へのサービス提供を学ぶ機会になりました。また在宅医療・療養の重度化・複雑化学べた。
- ・同地区以外の多職種での情報交換ができて良かったです。多面からの問題点がわかって良かった。

■ 保健師

- ・患者・家族を中心に地域の多職種が連携しながら支援している現状が理解できた。人材確保・育成の間から地域包括システムへ支援していきたい。
- ・少しずつ連携がとれてきているが、まだまだ連携のとれていない職種があり今後連携していきたい。ケアマネとしての利用者さんの再アセスメントが必要だと思った。多職種と議論する場を設けていただき、有難うございました。
- ・普段会うことがない方々とディスカッションが出来、それぞれの立場の思いが聞けてよかったです。各職種の協力なくして、包括ケアシステムは作れないと思います。今後とも多職種が集まり、同じ方向に向かって歩んでいけるといいなと思います。
- ・訪問歯科診療や訪問薬剤師を効果的に活用化していきたいと考えました。
- ・保健所で実施していただいた実証事業は本当に今までもんもんとしていた部分に、解決の方針を決めていただき感謝しています。「この機関には話てもダメだろー」と思っている、お話をする機会をいただき、顔の見える関係ができると、連携がすすむことを実感しています。

■ 歯科衛生士

- ・盛りだくさんのテーマで絞れない感じでした。時間少し長すぎて集中力が保てません。個人的資質だと思いますが。
- ・まだまだ歯科の存在がうすいと感じました
- ・ワールドカフェがもりあがり、色々な人とのつながりができてよかった
- ・多職種での連携が何より大切であると言う事。訪問診療においてケアマネさんがもっとも重要な役割をして

いる。歯科の訪問が必要かどうかはケアマネよりの紹介が良いと思われます。

- ・多職種の方とグループワークを行い、現状や今後の課題を知ることが出来た。連携が大切と言われても、実際に話す機会はなかったもので、とても貴重な時間となった。
- ・多職種の連絡の難しさ。人手不足はどこも職種でもある。(かかりつけ医院が訪問診療していない等)かなり難しい内容でしたが大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・入院～退院、在宅でクライアントを支える専門職の問題点を知ることができ、他職種の仕事を理解する事ができたと思う。
- ・病院、地域、多職種の連携は一部ではシステムが出来ているがまだまだ、情報の共有ができていない。ということがわかった。それぞれの職種の現状を知ることができた。

■介護支援専門員

- ・ICTによる情報共有は必要であると思うが、何をどのように、どのような情報を共有するのか検討する必要がある。
- ・MCSのツールに大変興味があり、すすめて頂きたい
- ・どうにか、こうにか、何かしらの形(地域包括ケア)が見えてきた。ケアマネジャーとしては上記の「思」と点をつないで「線」にし「面(地域)」にできればと思う。
- ・またひとつネットワークが広げられた
- ・往診での歯科衛生士や栄養士の導入がまだまだ難しい課題と感じました
- ・楽しく参加させてもらいました。ありがとうございました
- ・色んな人と色んな意見交換ができて良かった。頑張らないとなーと思いました。ありがとうございました。
- ・他職の方の話を聞いてよかった
- ・他職種の方からいろいろな話がきけて良かったです。参考にしたいことも聞き、今後の自分のケアプランに役立てたいと思います。
- ・多職種とのかかわりが必要と感じました。又、それぞれの職種の方のとりくみやどのような働きかけができるのかなど個人としても勉強する必要があると感じました。
- ・多職種との意見交換が出来た事が良かったです。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・樫原・桜井・宇陀、3つだけでも地域差がたくさんあった。良いものをどんどん取り入れていきたいと思えます。
- ・医師、看護他の方々の意見を聞かせて頂く機会が大切だな。一人の思いとの違いを多く感じました。医師の方々の参加が多いのはとても嬉しかった。

■理学療法士

- ・ワールドカフェの時間が短く、もう少したくさん話したかった。今まで関係がないDr.の考え方など知る事ができて良かった。

■病院ソーシャルワーカー

- ・それぞれの職種の方が、今後についての思いをしっかりとって、進んでることを感じられ良かったですが、時間に追われる様な形だったので、もう少し話を聞ければと思った。
- ・マニュアルの意味を理解して医療者が連携をとれるようになること。なにより患者家族の意向を大切にする必要があることを感じました。地域の力をあげること、理解をしてもらうことも必要。ケアマネの役割、退院調整について知ってもらうことが必要。
- ・関係者の意識は高まっているが、もっと行政をまきこみ臨機応変な対応をしてもらえるようにすることが、利用者にとって良い支援につなげることになる。また、地域住民にもこのような取り組みや理解、協力が必要。
- ・薬剤師(薬局) 歯科衛生士は連携したくてもどのように連携したらよいか分からない。特に歯科衛生士は、情報が入ってこないの、病棟勤務(組織)に入って、最新の情報を得る、患者の病状や病態を知る努力をしている。

■介護職

- ・シンポジウムでの話で様々な職種の方の話がきけて良かったと思います。特に訪看さん、ケアマネさんの発表に興味をもちました。

■その他

- ・このような研修会を重ねることでそれぞれの業界で色々取り組んでいることがお互い分かり、良かったと思います。
- ・ふだんは接点のない職種が集まることができて良かったが、ワールドカフェの時間がどうしてもタイトであり、ゆっくり情報交換できにくかったのは残念。
- ・医学生として参加させて頂き、現場の方に学ばせて頂くつもりだったが、それだけでなく、現在、まさに包括ケアを改善しようと最先端を走っている方々の動きを知り、バトンをつなぐ者として、助走をつけながら、卒後現場に参加して行ければと、意義を感じた。
- ・各職種の仕事を他職種に理解してもらって垣根が低くなればいいですね。
- ・各人が抱えている問題意識をpick upできて良かった
- ・全体にとっても勉強になりました。特に歯科の重要性が印象的でした。
- ・多職種の方と交流をすることで視野が広がった
- ・普段違う職種の方と話す機会が少ないのでとても勉強になりました。

- ・中和保健所で進められている内容がいま一つ理解できない。桜井以南が中心に動かれている様で（今までの研修でも思っていたが）本当に淋しい限りです。病院との連携書（これを言われるならどんな物か説明が必要！！）たるもの見たことはない。桜井だけですか。
- ・保健所で実施していただいた実証事業は本当に今までもんもんとしていた部分に、解決の方針を決めていただき感謝しています。「この機関には話てもダメだろー」と思っている、お話をする機会をいただき、顔の見える関係ができると、連携がすすむことを実感しています。

⑥今後の研修会等の内容に対する要望

■開業医

- ・住民の要望・行政の意見（市町村）を聞ける場も欲しいかと思えます。いつも御苦労様です。ありがとうございます。まだまだ中和保健所におんぶにだっこですがそれぞれの地区が自立していけると良いなあと思えます。
- ・情報共有、アセスメントの評価は、退院カンファレンス、業務内容のアセスメントの「見える化」は

■歯科医師

- ・在宅歯科医療のあり方
- ・同じテーマでも1年たてば出来たことが増えるし、反省もできるので、この形でまた続けていって下さい。

■薬剤師

- ・個人情報保護の中で、情報の共有・共通化をどうするのか、実際にネットワークを実施されている自治体などから講演とか聞いてみたいです。

■看護師（訪問看護）

- ・全体の集まりは毎年1回は続けて頂きたいです。（準備大変だと思いますが）でも、この集まりの先に市町村での単位での集まりが必要な…と思いました。

■看護師（病院）

- ・どのようにすれば在宅での薬剤師・栄養士・衛生士さんたちを患者さんは利用できるようになるのでしょうか？
- ・継続は力なり
- ・情報共有のあり方、連携のあり方をお聞かせ下さい。毎回信頼関係が深まっているように感じます。在宅に向けたすばらしい会議に参加させていただきありがとうございます。又、次回を楽しみにさせていただきます。
- ・土曜日にしてほしい（時間長い）
- ・日曜日以外の研修にしていきたい。

■保健師

- ・回数が増えてもいいので、もう少し研修時間が短くなるとういなと思えます。
- ・①在宅で訪問診療をする医師の数は、まだまだ不足しています。また、その他の開業医の先生方も少しずつ理解は深まっていますが、温度差もあります。地区医師会でも地域包括ケアシステムの研修が必須になってきているそうです。医師会での勉強会に多職種が参加し理解を深めたいと考えています。今後ともご協力よろしくお願ひします②1号保険者の介護保険利用率20%程度⇒残り80%の住民に対し多職種が果たすことができることを考える研修。

■歯科衛生士

- ・継続してほしい。
- ・歯科界の連携が必要（多分歯科医師会、衛生士会ではしているが）会に属さない従事者にも情報が必要だと思います。行政はその垣根をこわして欲しいです。私は会に入ってますが…
- ・次回も期待。参加するごとに新しい情報が得られます。
- ・実際、どのように連携が行われているのか症例などがあれば知りたい。

■介護支援専門員

- ・また別のテーマでもよいので多職種の人々と話し合える機会を作っていただきたい。多職種の人と連携することによりケアマネとしてのレベルアップをはかっていきたい。
- ・書類が何かにつけて多いので、もう少し書類を少なく多職種の連携がとれれば良いと思う。
- ・連携シートも大事ですが、退院時ケアカンファレンス自体の内容整理や会議時間の見直しが必要かと。
- ・病院・薬局ともしっかり連携を取れるように研修して欲しいと思えます。

■理学療法士

- ・事前検討

■病院ソーシャルワーカー

- ・栄養の重要性から、管理栄養士や行政（地域包括ケア）の推進されている担当者の積極的な関わりが今後必要。

■介護職

- ・もっとたくさんの職種がどのような役割を担っているのかお互いを知ることが大切なので、ヘルパーさんなど利用者に近い存在の方々の話も聴くことができるとと思います。

■その他

- ・ワールドカフェの時間にもう少し余裕があると理解が深まると思いました。会場の運営、設営おつかれさまでした。
- ・一部ですがスライド・資料共に字が細かすぎて、すぐに判読出来ないのがありました。
- ・専門職のつながりや連携の機会はできているが地域住民の意識改革の機会も必要と思われる。
- ・①在宅で訪問診療をする医師の数は、まだまだ不足しています。また、その他の開業医の先生方も少しずつ理解は深まっていますが、温度差もあります。地区医師会でも地域包括ケアシステムの研修が必須になってきているそうです。医師会での勉強会に多職種が参加し理解を深めたいと考えています。今後ともご協力よろしくお願いします②1号保険者の介護保険用率20%程度⇒残り80%の住民に対し多職種が果たすことができることを考える研修。
- ・あちこちで話をされているシンポジストの顔ぶれ（同じ内容を聞きました）他に頑張っておられる方も多いです。ケアマネは包括ではなく在宅ケアマネの話がききたい。

■当日の様子

●会場の様子



●シンポジウム



●ワールドカフェ

